

|               |  |                   |  |
|---------------|--|-------------------|--|
| 授業科目名         | 保育内容人間関係   | 担当教員名             | 石村 万寿美   |
| 必修/選択         | 必修   | 開講学年・学期           | 2年 前期 (年間開講数 2講座)  |
| 科目区分          | 教職・保育に関する科目  | 単位数               | 2単位 (30時間)   |
| 施行規則に定める科目区分等 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)<br>保育の内容・方法の理解に関する科目(別表1)   | 授業方法/担当形態         | 講義 / 単独  |
|               |  | 特記事項              | ※実務経験のある教員等による授業<br>幼稚園園長、幼稚園教諭として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。 |
| 授業の概要及び全体目標   | 幼児教育の目的と領域の関係性や環境を通しての教育、そして、領域『人間関係』と他領域との関係を学ぶ。事例と理論を関係づけることから、幼児期における人とのかかわりの発達をみつめ、支え、広げ、深める保育者の役割について事例研究を通して学ぶ。  |                   |  |
| 到達目標          | <p>事例研究を通して、幼児の内面理解と保育者の役割について学ぶ。 — 保育実践事例から保育に生きる「保育内容」を学ぶ —</p> <p>1-保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>(2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点 (「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」)と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域 (「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>(3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>(4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程 (計画・実践・記録・省察・評価・改善) の実際について理解する。</p> |                   |  |
| テキスト          | 【新訂】事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係 (明文書林)   |                   |  |
| 参考書・参考資料等     | 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)   |                   |  |
| 成績評価の方法       | ○授業意欲、態度：20% ○提出物：20% ○定期試験：60%にて総合評価  |                   |  |
| 授業計画          | 授業の内容  | 到達目標番号            |  |
| 第1回           | ○オリエンテーション<br>①幼児教育の基本<br>・幼稚園教育要領・保育所指針・幼保連携型認定子ども園・保育要領における幼児教育の捉え方  | (1)-①,(1)-④       |  |
| 第2回           | ①幼児教育の基本<br>・幼児教育で育みたい資質・能力の明確化と、教育保育の改善・充実  | (1)-①,(1)-②,(1)-③ |  |
| 第3回           | ①幼児教育の基本<br>・カリキュラム・マネジメントの確立<br>・幼児教育の目的と領域   | (1)-④,(2)-②       |  |
| 第4回           | ①幼児教育の基本<br>・保育者の様々な役割<br>・領域『人間関係』と他領域との関係  | (1)-③,(2)-②,(2)-⑤ |  |
| 第5回           | ②幼児期の発達と領域『人間関係』<br>・親(保護者)との出会いとかわり<br>・乳幼児と保護者の出会いとかわり   | (1)-②,(2)-①       |  |
| 第6回           | ②乳幼児期の発達と領域『人間関係』-事例研究を通して、子どもと保護者のかわりを理解<br>・友だちとの出会いとかわり<br>・友だちとのぶつかり   | (2)-①,(2)-⑤       |  |
| 第7回           | ③子どもと保育者のかわり<br>・子どもとの信頼関係を築く<br>・自己主張を支える   | (1)-②,(2)-④,      |  |
| 第8回           | ③子どもと保育者のかわり-事例研究を通して、保育者の多様な役割を理解<br>・心の安全基地として子どもの人間関係を支え  | (1)-②,(2)-①,(2)-② |  |
| 第9回           | ④遊びのなかの人とのかわり<br>・遊びと子どもの育ち<br>・遊びの発達と人間関係<br>・遊びのなかの友だちとのかわり  | (1)-④,(2)-①,      |  |
| 第10回          | ④遊びのなかの人とのかわり-事例研究を通して、子どもにとって仲間とはどんな存在なのかを理解<br>・遊びのなかで共有すること<br>・遊びをつくる  | (2)-①,(2)-②,      |  |
| 第11回          | ⑤生活を通して育つ人とのかわり<br>・親(保護者)とのかわり<br>・家庭生活を通しての価値やルールの学び   | (1)-②,(1)-④,(2)-① |  |
| 第12回          | ⑤生活を通して育つ人とのかわり-模擬保育を通して、子どもが人とのかわりを積み重ねる経験について考察<br>・家庭生活を通してのきょうだいや祖父母とのかわり<br>・園生活と人とのかわり   | (2)-③,(2)-④,(2)-⑤ |  |

| 授業計画 | 授業の内容   | 到達目標番号                                  |
|------|---|---|
| 第13回 | ⑥個と集団の育ち<br>・1人ひとりを理解する<br>・個と集団の関係・共同性を育む  | (2)-①,(2)-④                             |
| 第14回 | ⑦人とかかわりを見る視点－事例研究を通して、子どもの育む保育と援助について理解<br>・人とかかわりの基盤となるもの<br>・自立心、共同性、道徳性、規範意識の育ち      | (1)-②,(2)-①,(2)-②,<br>(2)-⑤             |
| 第15回 | ⑧幼児教育の現代的課題と領域『人間関係』<br>・人とかかわりを育む幼児教育の今日的課題<br>・人とかかわりを育てる保育者のさまざまな役割 ※情報機器あるいは視覚教材の使用 | (1)-②,(1)-④,(2)-①,<br>(2)-②,(2)-③,(2)-⑤ |
| 定期試験 | 筆記試験  |   |